

宮私幼 だより

vol.141



巻 頭 言

春三月、歳のせいか、月日の経つのが早くなったような気がします。卒園式も終わり、新学期の準備に大わらわの毎日をお過ごしのことと存じます。振り返ってみれば、平成 26 年度は、子ども子育て新制度の対応に明け暮れた 1 年でありました。あれよあれよと言っている間に動き出し、さまざまな課題を何の改善もできぬまま、4 月を迎えることに責任を感じております。宮城県内では、いまのところ、約 1 割の幼稚園が新制度に移行することになりました。仙台市内の幼稚園が殆どですので、お互いに情報交換を密にし、後から続く私立幼稚園の道しるべになってほしいと願ってやみません。

私事ではありますが、平成 18 年 12 月に認定こども園幼稚園型になり、保護者の方々からもようやく認知されてきたところに、この新制度が適用され、他市町の子どもが入園できなくなるという状況にかんがみ、移行しない決断を致しました。残念でなりません。

新年度も、引き続き、様々な課題に対処していかなければならないと考えております。幼児教育が衰退の一途を辿ることなく、益々充実し、健全な運営ができるよう、会員の先生方のより一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。あわせて、震災復興にもご協力願います。



宮私幼理事長 村山 十五



Close・up 理事会

平成26年度宮私幼理事会の概要（9月～3月）

【平成26年度臨時理事会】

日 時 11月19日(水)午後3時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

- (1) 各委員会の上半期事業活動状況報告について
- (2) 教育研究発表大会について
 - 「こどもがまんなかPROJECT」
 - チャリティコンサート&絵本のつどい
- (3) 「後援名義使用に関する規定」について
- (4) 定款第5条の変更について

報告事項

- (1) 東北地区設置者・園長研修会【6/20開催】
- (2) 東北地区会11/14(金)教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会の報告
- (3) 私立学校等教育現場正常化促進事業担当者の交代について
- (4) 国への要望書の提出について

【平成26年度通常理事会】

日 時 2月18日(水)午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

- (1) 平成26年度第2回定時総会の議案書について
 - 第1号議案 平成26年度一般会計収支補正予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支補正予算(案)並びに受託事業収支予算(案)について
 - 第2号議案 定款の一部改正(案)について
 - 第3号議案 退職手当資金給付事業運営規則の一部改正(案)について
 - 第4号議案 平成27年度事業計画(案)について
 - 第5号議案 平成27年度一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について

- 報告事項
- (1) 後援名義使用に関する規定について
 - (2) 東日本大震災義援金の状況について
 - (3) その他

そ の 他 平成27年度園児募集の日程等について

- (2) 第2回定時総会の議長、議事録署名人及び司会者について
- (3) 義援金の配分について

報告事項

- (1) 就職内定学生実習期間の傷害保険の申し込み状況について
- (2) 宮私幼教育研究発表大会
3月25日の役割分担について
- (3) 平成27年度以降の新システムへの移行(予定)調査結果について
- (4) 優秀教員表彰及び永年勤続表彰について
- (5) 市町村補助金調査表について
- (6) 平成26年度地区運営費に関する報告書の提出について
- (7) その他

事務局だより

○関係機関団体

- 9/11 第23回仙私幼教育振興大会(イズミティ21)
- 9/17 第6回学ぶ土台づくり推進連絡会議(KKRホテル仙台)
- 10/15 子ども・子育て支援新制度説明会(県庁)
- 10/27 宮城県子ども・子育て会議(県庁)
- 11/20 第7回学ぶ土台づくり推進連絡会議(県庁)
- 11/27 みやぎっ子ルルブル推進会議幹事会(県庁)
- 11/28 宮城県次世代育成支援対策地域協議会、宮城県子ども・子育て会議(県庁)
- 12/17 子ども・子育て支援新制度に関する情報交換会(東京エレクトロンホール宮城)
- 1/7 第28回仙私幼教育研修大会(仙台市民会館)

○全日私幼連

- 9/3 第29回PTA連合会全国大会(東京)
- 9/17 102条園研究会議(東京)
- 10/7 第7回都道府県政策担当者会議(東京)
- 10/17 第29回東北地区私立幼稚園教員研修大会(秋田大会)
- 10/17 公開保育コーディネーター養成講座(秋田)
- 10/20～21 第30回設置者・園長全国研修大会(香川)
- 11/11 臨時・理事会(東京)
- 11/14 東北地区会教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会(福島)
- 12/2 団体会長・理事会合同会議(東京)
- 1/21～22 全国研究研修担当者会議／公開保育コーディネーター養成講座(京都)
- 1/27 団体会長・理事会合同会議(東京)
- 2/18 後継者育成研修会(東京)
- 2/20 第2回東北地区・団体会長会議及び事務局長会議(福島)
- 3/4 102条園研修会(東京)
- 3/6 団体会長・理事会合同会議(東京)
- 3/25 免許状更新講習(イズミティ21)

○宮私幼のあゆみ

- 9/10 総務給付委員会
- 9/18 研究委員会
- 10/8 総務給付委員会
- 10/15 石巻地区教育振興大会・PTA研修大会
- 10/21 第39回宮私幼PTA親善バレーボール大会(グランディ21)
- 10/23 研究委員会(造形展準備)
- 10/28 研究委員会
- 11/10 研究委員会
- 11/19 総務給付委員会・常任理事会・広報委員会
- 12/1 地区会長
- 12/3 総務給付委員会
- 12/12 研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ会／地区研究担当者会議
- 1/9 経営委員会
- 1/13 知事陳情・宮城県議会議長陳情
- 1/21 総務給付委員会
- 1/29 研究委員会
- 2/13 常任理事会と総務給付委員会合同会議
- 2/18 理事会・広報委員会
- 2/26 研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ会
- 3/3 設置者園長研修会・第2回定時総会(仙台市民会館)
- 3/6 総務給付委員会
- 3/9 研究委員会
- 3/25 宮私幼教育研究発表大会(イズミティ21)

○慶 弔

- 8/31 吉岡 弘道 氏(岩切東光第二幼稚園 前理事長)ご逝去
- 9/13 のびる幼稚園新園舎落成式
- 10/30 宮城県知事表彰(教育文化功労)受賞
遠藤 弥一郎先生 (みやの森幼稚園)
- 11/13 みやぎ食育表彰(宮城県) ゆりかご幼稚園
- 11/24 わかくさ幼稚園創立60周年記念式典
- 11/29 愛子幼稚園創立50周年記念式典
- 1/14 山口 君子 氏(まこと幼稚園 理事長・園長) 逝去
- 2/6 木村 證 氏 (若竹幼稚園 代表役員) 逝去

保育士給与大幅アップ!!

「東京で一緒に働きませんか？」

宮私幼副理事長 佐藤 宏郎

これは先日、拙宅の新聞折り込みチラシに掲載されていた、某株式会社設立の東京都内勤務者対象の求人広告の見出しです。

その内容を一部紹介しますと、平成27年4月からの給与例として、月額232,500～276,500円（基本給＋各種手当＋時間外手当15,000円程度（平均10時間含む）。賞与年2回、交通費全額、退職金有。年度平均年収320～380万円。その他引越越し費用の一部負担（上限3万円）。社員寮完備、自己負担額10,000円。持ち株制度有。年間休日122日。有給取得率58％。育休取得率98.9％と続きます。

皆さん、どう思われますか？

「それは東京の話で、ウチは大丈夫。」

「人はお金だけでは動きません。やりがいのある職場である当園では、心配いりません。」とお考えの先生方、本当に大丈夫ですか？

厚生労働省は、平成29年度末までに待機児童解消を目指すべく「待機児童解消加速化プラン」と銘打ち、平成29年度末までに約40万人の保育の受け皿を確保すべく躍起となっています。全国規模で幼稚園教諭・保育士不足になることは必須です。



保育の質とは、そこに携わる教職員の質であること、先生方は先刻ご承知のはずです。しかし、現実、求人に対し何倍もの求職者の応募があり選考するに苦慮した、という経験は遠い過去のものとしています。ではどうするか？

待遇に誘われ東京で就職した学生ですが、たとえ1年目であろうが10年目の職員と同等の仕事の量と責任を与えられ、力尽き夢破れ、3年または1年或いは1



年経ずして、帰郷する者も多いと、養成校の先生からお聞きしました。株式会社立の保育園と、給与等待遇面で争うのも一考かとは思いますが、各園で待遇面の改善に真剣に取り組みつつ、各園の歴史ある「園風」や「人間関係の良好さ」及び結婚しても仕事が続けられる職場環境になっている等の付加価値が高いことをアピールすべきです(但し、目に見える形で)。

求人方法も、職安等に頼らず独自のルートで、例えば退職した元教職員や卒園児に声を掛ける等の方法で何とか工夫し、この難局を乗り越えたいものです。昨日今日開設した保育所とは格が違うのですから！

私は、この2～3年の辛抱と考えています。

大都市への人口集中と地方の過疎化プラス晩婚化・非婚化で1年間の出生数が100万人以下になることは目に見えています。

日本全体では、2030年から100万人ずつ人口が減るそうです。大宮とか仙台規模の都市が丸ごと消える規模です。そして、待機児童は平成29年度でほぼ解消します。

質の高い保育は、質の高い幼稚園教諭・保育士の確保に尽きます。職員同士明るく元気で「楽しい」と感じられる職場になっているでしょうか？この稿で、各園がそれぞれ問われる時代にもうなっている現実を再確認していただければ幸いです。

平成26年度宮私幼教育研究発表大会

大会テーマ **園内研修を支える教師の同僚性について考える**

日時 平成27年 3月25日(水) 9:45～15:20 会場 イズミティ 21 (仙台市泉文化創造センター)

本年度の大会は第1部から第4部までと盛りだくさんの内容で充実した研修となりました。

第1部 開会行事

鎌田文恵副理事長の開会の言葉では、新制度がいよいよ4月から始まるが、幼稚園と保育園の違いは研修内容にあるので、今日一日しっかり身につけていって欲しいと挨拶がありました。続いて、横澤行夫先生の指揮の下「幼稚園賛歌」を斉唱しました。村山十五



理事長の挨拶では、4月から新制度がスタートするが、宮私幼としてもできる限りの協力をしていきたい。幼稚園であろうが、新制度の施設であろうが、幼児教育の施設に変わりはないので、最善の幼児教育を進め、子どもたちを健やかに育てていって欲しいと思います。結びに来賓の皆様にはこれからも私立幼稚園振興のためにご尽力い



ただくことをお願いいたしますと話されました。

教員表彰では、永年幼稚園に勤務された55名の先生方が表彰され、代表としてあらまき幼稚園千田有希子先生が表彰状を受け取られ、お礼

の言葉を述べられました。

ご来賓として、はじめに宮城県知事村井嘉浩様代理、私学文書課長千葉章様よりご祝辞をいただきました。その中で、東日本大震災から4年が経ち、復興も見えてきたが、未だ不自由な生活を強いられている方もたくさんおられます。県として



も復興を加速させると共に、未来を担う子どもたちの幼児教育も最優先事項として位置づけております。新



制度の中身を実現させるためには、現場でより充実した幼児教育が行われなければなりません。先生方にはこの研修を通して受けた刺激を同僚にも伝えていただきたい。これからも、宮私幼と共に力を合わせていきたいと述べられました。次に安藤俊威県議会議長様よりお祝いの言葉をいただきました。近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しているが、幼児期が人間形成の基礎であることに変わりありません。県議会としましても、引き続き関係機関と連携しながら、私学振興、教育環境の充実を図り、未来を担う子どもたちのために力を尽くしていきますので、皆様にもご尽力いただきますようお願い致します。

続いて、宮私幼PTA会長であり、県議会副議長の渥美巖様よりご挨拶をいただきました。宮私幼PTA連合会として、常に宮私幼と一体となって活動しており、毎年3つの目標を立てています。その3つ目の保護者の負担軽減は、私立幼稚園と公立幼稚園の保育料の格差が4～5倍あるので、それを少なくしようと言うことが大きな目標となっています。毎年知事、私学文書課等に要望を行っていますが、今年の予算では1.2%ほど上がったものの全国的には下位に甘んじています。その中で先生方の退職手当の補助率が1000分の21から22にアップされたので、若干前進しています。皆様にはこれからも、一生懸命宮城の大事な子どもたちを磨き育てていって欲しいと思っております。

ご来賓の紹介に引き続き、佐藤宏郎副理事長の閉会の言葉では、ご来賓の方々への感謝、表彰された先生方への激励を述べ、年度末の忙しい中、一堂に会して1年間の締めくくりをし、リセット

して新たな4月からのスタートに備えて下さいと結ばれました。

第2部 分科会

第2部の分科会については、『平成26年度幼稚園教育研究紀要』に詳細に掲載されるので、簡単な紹介に留めます。

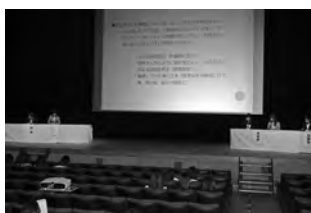
第1分科会(小ホール)

「行事への取り組みについて～保育参観に向けての園内研修～」と「職員間の連携について～有意義な話し合いを行うためには～」



第2分科会(大ホール)

「幼児が喜んで鍵盤ハーモニカ演奏に取り組むためには～鍵盤ハーモニカ指導に取り組む教師の姿を追う～」と「ふれあいあそびについて」



第3分科会(展示室)

「園の自然～気になる木と草花～」と「集団遊びのやり方、進め方を習得し、幼児にその楽しさを感じてもらう」



新しい試みとして、宮私幼だより139号に三塚薫先生「公開保育コーディネーター(評価者)養成講座に参加して」に記されていたことが所々で実践されていました。上記の各分科会のそれぞれのテーマを実践するに際して教員同士の話し合いの持ち方、つまり園内研修について発表されました。各分科会ではフロアからの質疑が少なかったようですが、ポスター発表への意見を記入した小さな付箋がたくさん貼られていました。



第3部 チャリティコンサート

(ピアノとヴァイオリン演奏&絵本のつどい)

全日私幼などは、「こどもが まんなかPROJECT」の活動の一環として大震災の被災地を励ますイベントを行ってきております。今回はピアノ：

広中舞さん、ヴァイオリン：神谷未穂さんによりエルガー作曲「愛の挨拶」など軽快なトークを交えて数



曲演奏していただきました。また、泉ヶ丘幼稚園の先生により効果音を入れながら絵本「ぐりとぐら」の読み聞かせが行われました。

第4部 講演会(要旨)

演題「園内研修について」

～園内研修を通して保育者の同僚性と
保育者としての専門性を高める～

講師 大妻女子大学

家政学部児童学科教授
岡 健 氏

第2部の分科会発表がとても良かったので…と、急遽内容を変えて話されました。



質の高い教育及び子育て支援を提供するためには、保護者以外に幼稚園教諭等子どもの育ちを支援する者の専門性や経験が極めて重要であり、研修等によりその専門性の向上を図ることが必要であります。

『遊び』『学び』『保育の質』とは何だろうか？幼稚園は小学校の下請けではありません。文字や数字が読める書けることが目的ではなく、文字や数字に親しむこと、そのための環境構成が大切なのです。例えば、園児が自ら手に取れる絵本が6冊以下であったり、高い場所に置いてあったり、破れていたたりするのは不適切な環境です。また、主体性、自立性、個性は、他力で育てられるものではなく、日々の遊びの中で培われるものです。遊びは始めることも終わることも自分で決められるので主体性が育ちます。

園内研修の主旨は、保育の質の向上を目指して、学び合う土壌を作ること、子どもの見方に気づくこと、保育を深めることにあります。研修を進めるには、まずは足場づくりをします。第一に意見を持つこと、次に意見を発言すること、そして意見を共有することが基本的条件です。これが組織的対応、同僚性の構築、人柄への気づきへと繋がるのです。

(小川せつ子)

宮城県知事・議会議長への陳情

本年1月になると、平成27年度予算の知事裁定を控えているということで、1月13日(火)午後2時より村井嘉浩宮城県知事、安藤俊威県議会議長に陳情しました。宮私幼の村



山十五理事長他理事、宮私幼PTAの役員の方々、そして、大和町もみじが丘幼稚園児佐藤あおちゃんもお母さんと一緒に村井知事をお願いしてくれました。また、お忙しいところ宮城県議会議員で宮私幼PTAの役員をされている渥美巖会長、中島源陽副会長、寺澤正志常任委員長、佐々木幸士常任委員にも同席いただいて力強いご支援をいただきました。

平成27年度私立幼稚園に対する県補助金等引き上げに関する要望書は例年と変わりませんが、

1. 全国43位という、私立幼稚園運営費補助金順位(学校法人分)を、国の財源措置と県費かさ上げにより、宮城県の各種統計順位や県財政力に相応しい順位

に改善するよう要望いたしました。

2. 宮城県私立幼稚園連合会の退職手当資金給付事業に係わる県補助金を、来年度1000分の22になるよう要望いたしました。

これに対して村井知事は退職手当資金給付事業についてはお約束するし、運営費補助についても厳しい財政のところ善処したいとの回答をいただきました。また、こども子育て支援新制度についてもお考えを聞かせていただきました。

続いて、安藤俊威県議会議長にもお目にかかり同様の要望書をお渡ししました。

なお、3月18日、運営費補助金が学法で前年度より+2,044円の173,702円、102条園で+736円の71,045円の予算が宮城県議会で可決されました。



平成26年
宮城県知事表彰

遠藤弥一郎先生おめでとうございます

期日：平成26年11月19日(水)午後5時30分～ 会場：仙台ガーデンパレス

発起人を代表して佐藤宏郎副理事長より、遠藤先生の略歴と功績について紹介がありました。遠藤先生は東北学院大学ご卒業後、昭和49年3月開園した吉岡幼稚園の副園長に就任されました。その後、吉岡幼稚園は平成3年3月にご父君故遠藤真弥先生のご尽力により、自然豊で広大な学校法人たちばな学園みやの森幼稚園として生まれ変わり、同幼稚園副園長になられました。平成9年4月に園長に、平成19年4月に理事長に就任されました。幼稚園

関係では「青経懇」の発足に関わり、また、長年宮私幼理事、PTA役員として責務を果たされ、平成5年3月宮城県PTA連



合会、平成8年10月全日本私立幼稚園連合会より表彰されました。それらの功績が認められ、この度の表彰となりました。この栄誉には美沙子先生の内助の功も篤く、また、お子様も後継者としてご活躍です。

次に村山十五理事長よりお祝いの言葉をいただきました。花束贈呈後に、遠藤弥一郎先生よりご挨拶をいただきました。

「宮私幼から知事表彰に推したいと電話があり、何が

何だかわからぬままに関係書類を提出致しました。昭和49年4月に父からムリムリ幼稚園に勤めさせられましたが、当時仙台市内は園児があふれていたのに大和町では園児が少なく、不安もありました。また、昭和55年頃の学法化になるかならないかの二者択一問題や園舎が老朽化し、園児も減少していました。そこで、2年半かかりましたが、国有地5ヘクタールを払い下げてもらい、今のみやの森幼稚園が出来ました。この間、みやの森幼稚園を知っていただきたく私と家内が200～300件のお宅を回りました。幼稚園のことは何も分からなかったの、村山先生、横澤行夫先生、そして青経懇の先生方からいろいろ学びました。今のみやの森幼稚園があるのも、この度の受章があるのも先生方のおかげです。ありがとうございました」とお礼のあいさつがありました。



続いて、横澤先生の乾杯のご発声のもと和やかに祝宴が開催されました。青経懇のお仲間だった菊田信先生、菅原彰先生、渡辺文雄先生などから遠藤先生のいくつかのエピソードが披露されました。名残惜しい中、恒例の横澤先生の音頭により「楽しくお酒が飲めるのは」を大合唱してお開きとなりました。

第2回定時総会・研修会

日時：平成27年3月3日(火) 13時～ 会場：仙台市民会館

午後1時、研修会として、宮城県私学文書課木川田真理子氏より、子ども・子育て支援新制度についてご説明いただきました。施設型給付の公定価格の調整について、特に処遇改善について、また利用者負担の微調整や、幼稚園・認定こども園における運営規定についてもお話しいただきました。

午後1時30分より、総会に先立ち、黙祷をもって物故会員の哀悼の意を表しました。鎌田文恵氏より、私学として建学の精神をどう全うしていくか、との開会の挨拶をいただき、



「幼稚園賛歌」を斉唱しました。村山十五理事長の挨拶では、私学助成が1.2%増となったこと、新制度では公立と私立の利用者負担の格差是正が課題であること、認定こども園及び保育園を含めるべく宮私幼定款の変更を行うことなどが話されました。

来賓祝辞では、宮城県私学文書課長千葉章様より、被災者の生活や地域経済の再建、教育環境の確保などへの取り組みや、新制度施行が詰めの段階に入ったこと、私学助成金の増額についてご報告いただきました。



その後、本総会に入り、第1号議案、平成26年度一般会計収支補正案及び退職手当資金給付事業特別会計収支補正



予算案並びに受託事業収支予算案が審議され、異議なく承認可決いたしました。引き続き第2号議案が審議され、定款の一部改正として「私立幼稚園、認定こども園及び保育園」を宮私幼に含め「私立幼稚園等」と表記することが決定しました。同様の趣旨で第3号議案、退職手当資金給付事業運営規則も一部変更しました。第4号議案では、平成27年度事業計画案が承認可決しました。新制度においてもこれまで同様加盟園が一緒に行動し、保育の質向上につながる教員の待遇改善や、3歳児の就園率引き上げ、保育料無償化に向けての取り組みなどを行うことを一同確認いたしました。最後に第5号議案の平成27年度一般会計収支予算及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算が決まり議事を終えました。報告事項として、後援名義使用に関する規定と園児募集日程を従来通りとする件が報告され、総会を終了いたしました。

(早坂文彦)



編集後記

本号では、幼稚園訪問記として東日本大震災で大きな被害を受け、移転新築したのびる幼稚園を取り上げさせていただきました。大震災から4年が経ち、同園により復旧・復興の道標を示していただいたことは、同じ仲間として大変心強く、うれしくもあります。更なるご発展をお祈り致します。

いよいよ平成27年度から新制度がスタートし、私立幼稚園等にとって大きな正念場となるのでしょうか。同じ幼児教育の施設として手に手を取り合っていくことが大事だと思います。

幼稚園訪問記

幼な子とともに

のびる幼稚園

〒981-0503

東松島市矢本字西新町 10-19

幼稚園園児数 53名

(年長児7名、年中児19名、年少児27名)

※平成27年2月6日現在



のびる幼稚園では

保育時間	8時30分～14時
給食	週2回(月・火)
預かり保育	14時～18時まで (長期休業中は8時～18時 正月三が日のみ休み)
バス送迎	マイクロバス1台、ワゴン車2台

《概要》

昭和42年創立。野蒜海岸の風光明媚な松林に囲まれ、伸び伸びと育つようにと願って開園しました。

平成23年3月11日東日本大震災の津波により全壊。同年6月～8月松島第5小学校、同年8月～平成26年3月松島縫製工場の倉庫を借りて保育を続けました。平成26年4月に、各方面からの暖かいご支援を得て現在地に再開園することができました。



2月6日(金)、三陸自動車道矢本インター近く、県道43号線沿いにある真新しいのびる幼稚園を取材させていただきました。周囲には新しい団地が出来つつあり、将来の園児増も期待されます。



当日は風が冷たいものの青空が広がり、園舎の中では3・4・5歳児縦割り2クラスで、子どもたちが元気いっぱいラボ教室に興じていました。1階2階共に3クラスがパネルで仕切られ、必要に応じてパネルを開



けて広く使われています。また、階段付きのこどもだけの小さな空間もあり、園児達が多様な遊

びができるように工夫されています。1階には吹き抜けの仏壇を正面にお飾りした遊戯室があり、



天井も高く広々としております。遊戯室に隣接して厨房があり、専門の調理師が自園で給食を作っています。

《園長先生からのメッセージ》

矢本に移ったものの、「伸び伸び」育てる精神に変わりなく、現在地でも「のびる幼稚園」の名前を引き継ぐことにしましたと加藤秀幸園長先生はおっしゃっていました。また、大震災に際しては各方面から多大なご支援をいただいたことに深く感謝していますと申しておりました。

《教育目標》

「明るく、正しく、健やかに」(仏教保育)

幼児の心身の健全を図り、伸びゆく力を助長し、豊かな情操、道徳性の芽生えを養い、自主自立の精神と創造性を養い望ましい人間教育の育成に当たります。

《連帯と自立をめざして》

1. 進んで挨拶できる子
2. 思いやりと、感謝の気持ちをもてる子
3. 自分の事は自分で出来る子

《教育内容》

健康、人間関係、環境、言語、生活指導

右の写真は、毎週金曜日、ラボ教室(英語でリズムをしたり、ゲームをしたりする)などに積極的に活用しています。



(取材/梶 嘉一・鎌田俊昭)